

箱根・宮ノ下地区を対象とした分散型共同体を形成する ウェルネスコミュニティ施設の計画

—温泉街における空間の構造と人の行動に関する研究を通して—

建築前期 池上 知見
指導教授 湯澤 正信
指導教員 中津 秀之



0 はじめに

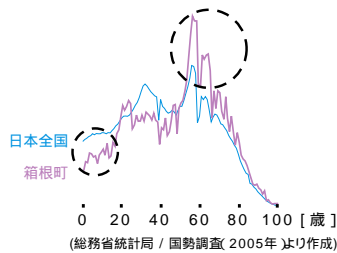
本研究及び計画は、温泉街における空間の構造と人の行動に関する調査・研究を踏まえ、分散型共同体を形成する住民と観光客の関係形成を、箱根・宮ノ下の小学校跡地を中心にウェルネスコミュニティ施設を計画することを通して提示したものである。

1 研究・計画背景

1.1 観光開発と少子高齢化の進む温泉街

我が国では、昨年1月「観光立国推進基本法」が施行され、観光立国への取り組みが加速している。一方海外では、観光は雇用を生み出し、地域経済を活性化させるビジネスと捉えられてきたのである。このような流れに後押しされ、日本の観光を代表する観光地の一つである温泉街においてもこのような開発がみられる。

しかし、温泉街に多い山村地域では少子高齢化に加え、若い人々の都心部流出による過疎化などの社会的問題を抱え、その土地の基盤である住民の生活が成り立たない現状である。



1.2 目的化する住民と観光客の交流

過疎化や高齢化が進む地方を活性化しようと農林水産省が導入した、都会の生活者が農山村で地域の人々と交流し、大自然や地元の暮らしに触れるグリーンツーリズムが近年再び活性化している。しかしグリーンツーリズムが交流・体験を重視した観光手法であることばかりが重要視され、住民と観光客を交流させ、体験を共にする事がどのような観光地でもただ目的化している。

1.3 温泉街と医療機関との関係

ウェルネスという概念や医療行為の多様化に伴い、最先端の技術や設備による手術や外科的治療行為の重要性の高まりと比例して、それらの医療をとりまく環境や体験も重要視されて来ている。このような背景の中で、温泉街の物理的な温泉資源だけでなくそれらを取りまく環境も含め、新たな役割や価値を見いだす事ができないだろうか。

2 温泉街における空間の構造と人の行動に関する研究

2.1 外湯の利用者の選択行為に関する研究 [対象地域：群馬県・草津]

2.1.1 研究目的

本論では省略する。

2.1.2 研究対象

“温泉街における外湯立地条件が利用者の選択行為に与える影響、日本建築学会 2007 年度大会学術講演梗概集”を参照のこと。

2.1.3 研究方法

2.1.4 研究結果・分析

現在草津の中心地に存在する 14ヶ所の外湯の基本事項を表にまとめ (表 02)、それをもとに各外湯の利用者の状況を、外湯の立地条件 (接道状況、周辺他宛もの機能)をもとに表にまとめ、分析をした (表 03)。

名称	所在地 (所有者)	源泉	管理	清掃	費用	利用者 ダイヤグラム	周辺建物機能	接道状況
千代の湯	滝下区 (群馬県)	湯畑 (群馬県)	湯長			a:29 d:2 g:0 j:2 b:0 e:4 h:2 c:5 f:0 i:0	→	→
白旗の湯	仲町区 (群馬県)	白旗 (群馬県)	町			a:22 d:6 g:0 j:2 b:5 e:10 h:0 c:0 f:0 i:0	→	→
関の湯	泉水区	地蔵 (群馬県)	付近住民自治			a:13 d:18 g:0 j:7 b:18 e:12 h:0 c:4 f:0 i:0	→	→
翁の湯	泉水区	湯畑 (群馬県)		寄付		a:20 d:17 g:0 j:5 b:7 e:4 h:0 c:40 f:0 i:0	→	→
風の湯	泉水区	用の湯 (草津町)	付近住民自治			a:19 d:15 g:0 j:2 b:17 e:7 h:0 c:3 f:0 i:0	→	→
千蔵の湯	本町区	湯畑 (群馬県)	区費			a:12 d:38 g:0 j:16 b:1 e:0 h:0 c:12 f:0 i:0	→	→
喜美の湯	文京区	湯畑 (群馬県)	清掃員を雇う	区費		a:5 d:39 g:0 j:13 b:7 e:0 h:0 c:7 f:0 i:3	→	→
地蔵の湯	地蔵区 (群馬県)	地蔵 (群馬県)	湯長			a:41 d:38 g:0 j:9 b:1 e:5 h:2 c:3 f:0 i:0	→	→
白旗の湯	立町区 (群馬県)	湯畑 (群馬県)	利用世帯より 300円徴収			a:42 d:66 g:0 j:25 b:0 e:4 h:0 c:9 f:0 i:0	→	→
長寿の湯	西郷塚区 (群馬県)	湯畑 (群馬県)	清掃員を雇う	区費		a:6 d:115 g:0 j:10 b:0 e:8 h:1 c:7 f:0 i:3	→	→
町営の湯	東郷塚区 (草津町)	万代館 (草津町)	清掃員を雇う	区費		a:3 d:55 g:1 j:4 b:8 e:0 h:0 c:4 f:0 i:0	→	→
瑠璃の湯	新田区	湯畑 (群馬県)	清掃員を雇う	区費		a:30 d:47 g:0 j:23 b:4 e:54 g:1 j:5 c:14 f:0 i:0	→	→
巽の湯	馬場区	湯畑 (群馬県)	区	区費		a:2 d:45 g:0 j:4 b:0 e:0 h:0 c:7 f:0 i:0	→	→
睦の湯	昭和区 (群馬県)	湯畑 (群馬県)	清掃員を雇う	区費		a:2 d:45 g:0 j:4 b:0 e:0 h:0 c:1 f:0 i:0	→	→

表02 外湯基本調査表

周辺建物機能別	住宅だけ高い	密着施設と住宅がほぼ同じ	観光客のための商店と住宅がほぼ同じ	その他
接道状況別	→	→	→	→
主要施設別	長寿の湯、巽の湯、白旗の湯	地蔵の湯	関の湯	千蔵の湯
交差点別	巽の湯	巽の湯		白旗の湯
地区別	町営の湯		風の湯、千代の湯	

表03 外湯基本分析表

2.2 考察

住民が主体となって利用している外湯は、外湯の建物が主道に接しているものが多い事が分かった。このことから、外湯の前の道空間が重要であると考えられる。外湯の建物は、主に脱衣所と湯船の2つだけで構成されている。また、湯の性質も強く温度の高い草津においての入浴スタイルがあまり長時間湯につからないということなどから、外湯を地域コミュニティのひとつとしている住民にとっては、外湯の建物が接する道までを含めて利用し、外湯の空間として認識しているのではないかと考えられる。以上の事から本研究では、住民と観光客ではまちの空間認識において差があり、それに伴うまちの使い方の違いが発生し場所の選択性に差異があるのではないかと考察する。

2.2 住民と観光客の活動と、街路空間の関係に関する研究 [対象地域：箱根・宮ノ下]

2.2.1 研究目的

本論では省略する。

2.2.2 研究対象

“住民と観光客の活動と、街路空間の関係に関する研究—箱根・宮ノ下を対象地域として—、2007年度 関東学院大学工学部研究発表会講演会資料”を参照のこと。

2.2.3 研究方法 a: [歩行時意識と街路空間の関係調査]

2.2.4 研究結果 a

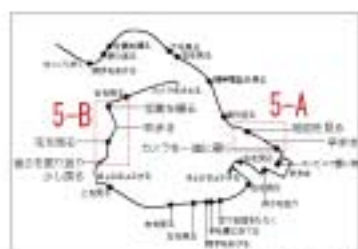
2.2.5 研究方法 b: [住民と観光客の歩行行動調査]

2.2.6 研究結果 b

道路の持つ地形的な特徴 (地形に沿って造られているものなのか、そうでないものなのか)と歩行時意識の変化分類より宮ノ下の街路空間の特徴を6タイプ抽出し (表 04)、それをもとに住民と観光客の歩行行動の観察データ (資料 05,06)を用いて街路空間と歩行行動の関係についてまとめた。

	歩行時意識の連続の仕方の特徴		
	(連続的)	(スポット的)	(断続的)
【ア】 等高線に沿って 造られた道路や通路			
【イ】 【ア】をつなぐ 道路や通路			

表04 街路空間抽出表



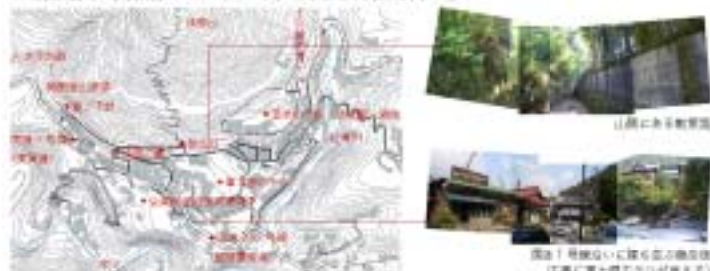
2.2.5 考察

箱根・宮ノ下の街路空間は、地形による景観特性である「仮通った特質を備えた線的な空間体験のできるみち」と「横断的で多様な空間体験のできるみち」が組合わさることで多様な空間体験を生み出し、歩行者の意識変化や行動に影響を与える。また、観光客は住民に比べ、移動目的以外の行為が街路で発生しない傾向にある。等高線に対し直交方向に延びる道や通路において、観光客は歩行付随行為が細かく変化する傾向にある。それに対して住民は、高圧線などにより異行きを感じられる街路空間において、歩行目的とはあまり関係のない活動が発生している。そのような街路空間は、等高線に沿って造られた道筋や通路、またはそれと直交方向のものが切り替わる部分に比較的多い。

3 計画敷地概要

3.1 地域概要

計画対象地域は神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下地域とする。急峻な山間部に位置し、地形に沿って造られた国道1号線に沿って集落が点在している。小さなマチの中に約300mもの高低差が存在し、山側の箱根登山鉄道沿いのエリアと国道1号線沿いのエリアで、異なる特徴を持つ。



3.1.1 地域拠点としての宮ノ下

宮ノ下地域は、都市計画マスタープランにおける広域連携軸上にあり国道138号線と国道1号線とがぶつかる位置にあたるため地域拠点として位置づけられている。



3.1.2 地域活動

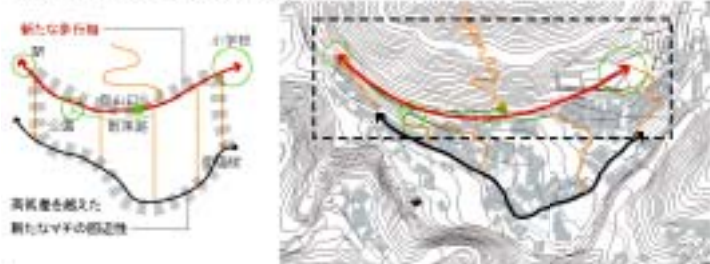
商店会の定例会議への参加や、アンケートの実施、地元の方との空家改装計画を通して宮ノ下の地域コンセプトを提案した

→参照:『NARAYA cafeのできるまで』blog.goo.ne.jp/naraya-cafe

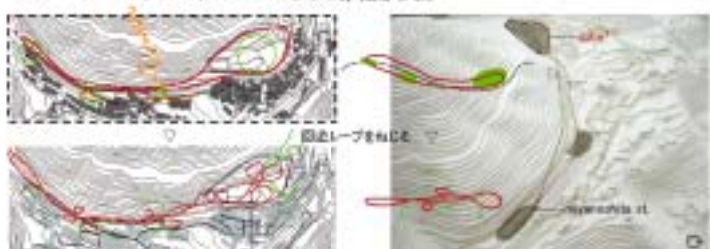
3.2 地域イメージと計画敷地選定

【回遊性の提案】マチの裏側に駅、公園、登山口、散策路、小学校が点在している現状に対しそれらをつなぐ新たな歩行軸を計画し、既存商店街を中心とする現在の歩行軸と合わせて2本の歩行軸が連携して行く事を提案する。

このことによって、高低差を越えた新たなマチの回遊性が生まれると考える。



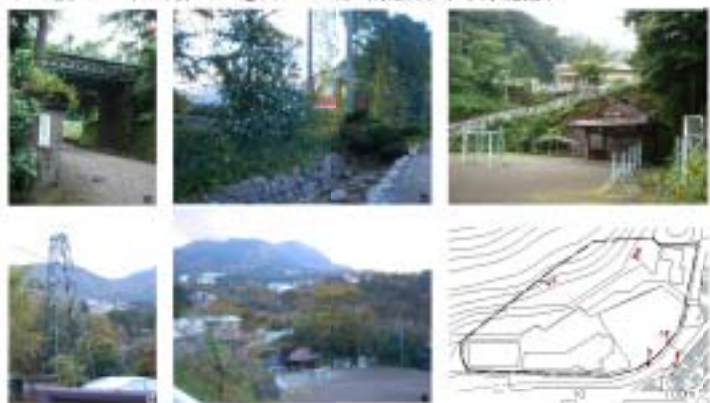
【新たな回遊歩行軸のデザインコンセプト】駅、公園、登山口、散策路、小学校跡地などをネットワークする、一葉がりの回遊ループをもとにそれらのポイントの地点で回遊ループをねじり、空間の結露点と経路の選択枝を増やす。この交点をきっかけにマチの様々な道へと繋がってゆき、この新たに提案する回遊ループは「マチへの入り口」のような存在となる。



以上の事を踏まえ、提案回遊路形成のきっかけとして温泉小学校跡地を計画対象敷地とする。

3.3 敷地概要 (所在地: 神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下413 / 敷地面積: 約15,032㎡ / 用途地域: 白地地域)

- ・箱根町立小中学校の統合に伴い、来年3月廃校となる。
- ・小田原市に住む温泉供給会社の社長が1960年頃に無償で供給を始めて以来、現在まで続けている。
- ・林間学校で都内から訪れる子ども達が使っていた既存の浴槽を利用し、学習の一環として温泉教育をスタートさせた。
- ・町から箱根設置やボイラーの湯炊きを提供してもらい、健康増進やコミュニケーションの場などとして「ふれあい入浴」を月に一回実施。子ども達の成長に合わせて学年ごとにテーマや指導内容を変え、体の発育や箱根の温泉の歴史、正しい入浴法などを学んでいる。
- ・跡地の利用はこれから町が検討するが、温泉を供給してきた社長は跡地を使用する施設に温泉を提供する意向だという。(※2008年1月現在)



4 計画の目的と可能性

以上の背景や2章の温泉街における空間の構造と人の行動に関する研究を踏まえ、研究目的を設定する。

4.1 住民と観光客の関係の再構築

住民と観光客のそれぞれの活動や体験を直接結びつけるのではなく、それぞれ小さな単位でばらばらに存在しながらも同時に目的・テーマ・環境といった部分を共有する「分散型共同体」としての人々の関係を提案することで、観光地における住民と観光客という二者のカテゴリーではない新たな人々の関係を提案することを目的とする。

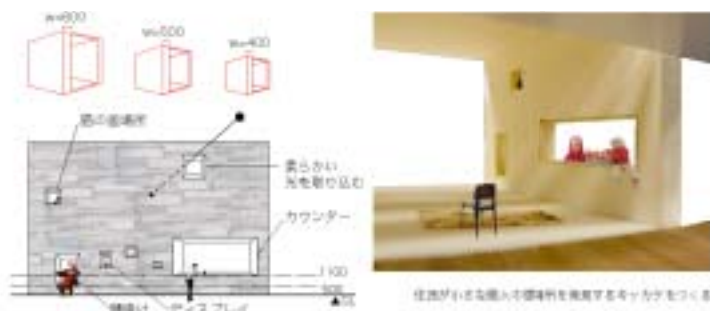
4.2 ウェルネスコミュニティ

箱根・宮ノ下において「自分のカラダを見つめる・自分のカラダについて考える (=wellness)」という概念は住民だけでなく、また観光客だけでもない様々な人々の嗜好を越えて人々を出会わせるきっかけに成り得ると考える。更に、分散型共同体としてのウェルネスコミュニティの提案は、箱根・宮ノ下における新たなコミュニティ単位の創出とともに、温泉街のこれからの価値に対する提案でもある。

5 計画概要

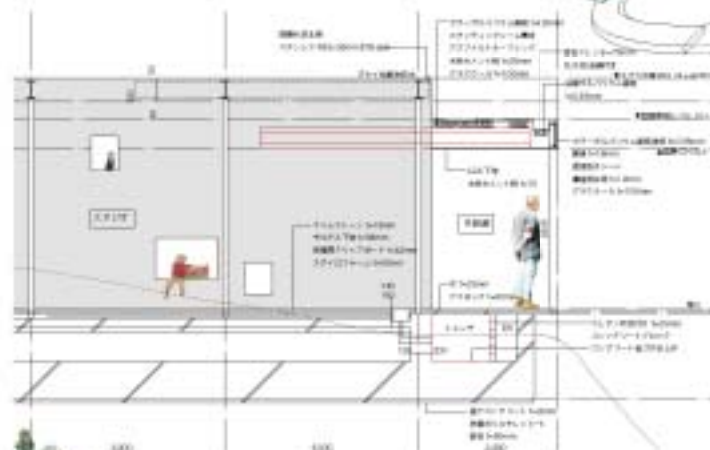
5.1 プログラム

【1】ウェルネスの概念を支える3つのメインプログラムとサテライト施設による4つのプログラムの柱によって構成する。ウェルネスを支える3つのそれぞれの柱について学び、体験するとともにそれらが連携しあうことが重要であると認識できるようにそれぞれが独立しつつも関わり合う部分をつくる。また、【2】小田原や、新宿の病院と連携し、温泉・自然という「環境」の提供を積極的に行う。



6.5 主要素材・構造計画

主要構造は鉄筋コンクリート造とする。activity home は仕上げ材として石を用い、corridorの床仕上げは木とする。corridorはactivity homeの壁内から鉄筋を延ばし、それによって支持する事を考える。



6.6 設備計画

- 基本的に床下ピットを利用し corridor の下の空間を使い全室をネットワークする。
- 空調熱源は集中熱源方式とし、冷温水発生機を用いる。
- 冷温水ポンプは負荷変動に応じ冷温水の流量を制御する変流量方式とする。
- 1部屋につき空調機1台を各建物のピットに設置し床下より吸排気・除湿を行う。一天井の高い部屋でも居住領域のみを局所空調することが可能



07 おわりに

私の計画した空間は、身体が動き回ることによって初めて体験できる空間の質を内包している。そして、この場所で作られる空間体験こそが官ノ下の新たな回遊体験づくりです。本計画では、1人1人への小さな単位の空間が、集まったり独立しながらも全体では一つの集合体を形成し、更に住民の日常的な活動が重要でありながらもそれだけでは完結しないウェルネスコミュニティーのプログラムが連動することによって、今までの観光地における“住民”と“観光客”という二者だけで語られる関係ではない新たなコミュニティーの形を提案している。



A study of the relation between spaces and human activities in hot spring district
 Planning of wellness facilities for residents and visitors